

柏崎刈羽原子力発電所 敷地内断層に関する地質調査の概要について

1. 調査目的

柏崎刈羽原子力発電所の敷地内断層については、これまで安全審査や耐震安全性評価において詳細な地質調査を実施し、耐震設計上考慮すべき活断層ではないと評価しております。

一方、本年 8 月 10 日に開催された経済産業省原子力安全・保安院の地震・津波に関する意見聴取会において、敷地内断層の評価にあたっては第四紀の地層の年代等のより詳細な検討が必要との指摘がありました。

これを踏まえて、当社は、当該地層の年代評価をより精緻に行うことを目的とした地質調査を実施いたします。

2. 調査概要

(1) 調査地点

下図に示す地点において調査を実施する予定。

(2) 調査実施時期（予定）

平成 24 年 9 月～平成 25 年 2 月末

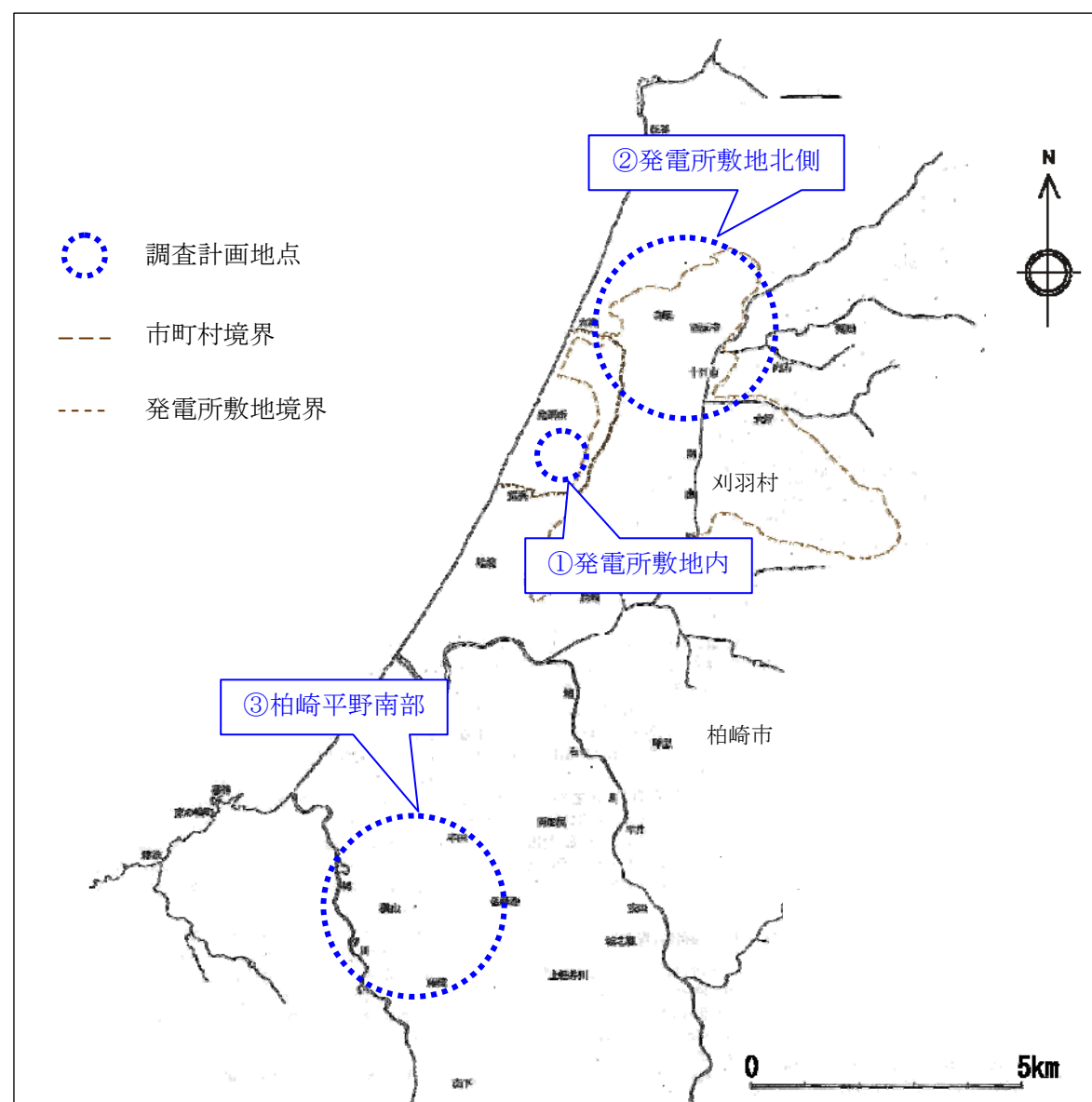


図 1 柏崎刈羽原子力発電所敷地内および敷地近傍の地質調査地点

(3) 調査方法

安田層など第四紀の地層の年代評価を行うため、図 1 に示す地点においてボーリング調査を実施し、採取した試料に対して各種分析を実施いたします。

<ボーリング調査>

地盤を構成する岩石などを棒状のコアとして連続的に採取し、これを観察して地質の状況を調査します。これを複数本実施することにより、地層の分布状況（連続分布など）を把握します。

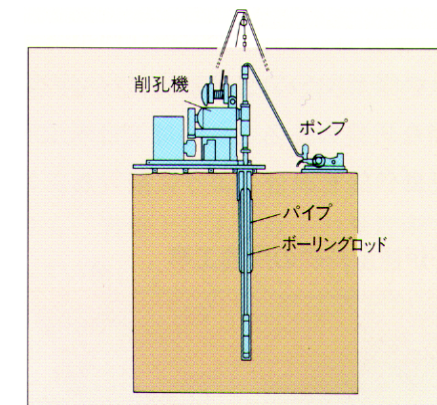


図 2 ボーリング調査（イメージ）

<採取試料の分析>

地層に含まれる花粉化石は、その種類によって堆積当時の気候（たとえば温暖なのか、あるいは寒冷なのか）を推定する材料になります。また、珪藻化石についても堆積当時の環境（たとえば海水環境なのか、あるいは淡水環境なのか）を推定する材料になります。

そこでボーリング調査で採取した試料について深度方向に花粉分析、珪藻分析等を行い、当時の気候や堆積環境からその地層が形成された年代を推定します。

3. 調査工程（予定）

調査項目	平成 24 年				平成 25 年		
	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
ボーリング調査	■						
採取試料の分析		■					
結果のとりまとめ				■	■	■	■

(注) 調査の状況によっては調査内容や工程を変更する場合があります。

以上